

令和 6 年 9 月 12 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K01721

研究課題名（和文）タレント識別における従業員行動に関する実証研究：本社と海外子会社間の認知ギャップ

研究課題名（英文）An Empirical Study on Employee Behavior in Talent Identification: The Perceptual Gap Between Headquarters and Overseas Subsidiaries

研究代表者

笠原 民子（Kasahara, Tamiko）

静岡県立大学・経営情報学部・講師

研究者番号：40523189

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、グローバルタレントマネジメント（GTM：Global Talent Management）が多国籍企業の海外子会社のタレントの行動に与える影響を明らかにすることにある。社会交換理論を用いて、GTMと多国籍企業の海外子会社間の水平的知識移転の関係およびその関係における本社の関与の媒介役割に焦点を当てた概念フレームワークを構築し、アジア地域・欧州地域に進出している日系企業を対象とした定量調査を実施した。パス解析の結果、GTMと水平的知識移転の関係は本社の注目と業績評価基準によって完全に媒介されていたが、社会化メカニズムは媒介していないことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

GTMに関連する先行研究では、主に欧米の研究者によって欧米の文脈でタレント識別やそれに関連する諸問題が定性的に実証されている。日本やアジアの文脈を踏まえ、かつ定量的手法によって考察した研究はほとんどない。本研究は、日本MNCsのデータを用いてGTMが水平的知識移転に与える影響およびその関係性における本社の媒介役割を実証的に考察し、GTM研究に貢献している。また、本研究の成果は、日本多国籍企業のHRMマネジャーにも実践的な視点を提供し、貢献している。

研究成果の概要（英文）：This study aims to explore the impacts of global talent management (GTM) practices, including talent identification practices, on local employees' behaviors at foreign subsidiaries of Japanese multinational corporations (MNCs). We focus on the mediating roles of HQ involvement, such as HQ attention, socialization mechanism, and performance evaluation criteria in the relationship between GTM and lateral knowledge transfer from the focal subsidiary to other foreign subsidiaries in MNCs. Drawing upon social exchange theory, we developed a theoretical model and tested this model using a sample of Japanese MNC subsidiaries in Asia and Europe. Our path analysis results indicate that the relationship between GTM and lateral knowledge transfer was fully mediated by HQ attention and performance evaluation criteria, while the socialization mechanism was not found to be a mediator.

研究分野：国際人的資源管理、国際経営

キーワード：グローバルタレントマネジメント タレント識別プロセス 国際人的資源管理 多国籍企業 本社の関与 水平的知識移転 社会交換理論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

グローバルタレントマネジメント (GTM: Global Talent Management) の先行研究では、本社と海外子会社間に介在する物理的、文化的、制度的距離、本社の意思決定者とタレント候補者間の認知的ギャップ等の諸要因がタレント識別に与える影響に関心が寄せられている。また、主にそれら先行研究の関心は GTM プラクティスそれ自体および GTM が企業または個人の成果に与える影響が考察されてきた。GTM プラクティスは本社のグローバル戦略に合致するように設計され、開発され、運用されているが、本社の関与や役割はほとんど考察されていない。また、先行研究の多くは、主に欧米の研究者によって欧米の文脈で定性的に実証されている。日本やアジアの文脈を踏まえ、かつ定量的手法によって考察した研究は皆無である。日本企業の海外子会社で GTM がどれほど実践されているのか、また GTM が企業レベルの成果に与える影響はほとんど考察されていない現状にあった。そこで、以下の3点について検証し、2本は論文として出版した。

2. 研究の目的

論文1) 本論文の目的は、文献レビューを通じて、多国籍企業のグローバルタレントマネジメント、特にタレント識別プロセスにおける地域統括本社のブリッジ機能を明らかにし、概念フレームワークを提示することにある。文献レビューを通じて、我々は、地域統括本社は、本社と海外子会社間に介在する様々な距離を媒介し、それら距離がもたらす弊害、すなわち本社から距離のある海外子会社のタレントやタレント候補者を識別することが難しいという問題、を克服する1つの組織的解決策であることを示した。本社による海外子会社のタレント識別に影響を与える個人レベルの要因として、文化的・制度的距離、ホモフィリー、海外子会社のネットワークポジションを、さらに、本社のタレント識別の意思決定に影響を与える海外子会社の諸要因として、本社のアテンション・イシューセリング及び社会化メカニズムを、また、本社のタレント識別の意思決定に影響を与える地域統括本社の諸要因として、自律性、シグナリング行動、インセンティブ、地域統括本社のチャーターを提案した。

論文2) 本研究の目的は、GTM 研究におけるタレント識別に焦点をあて、日本 MNCs の海外子会社でタレント識別プラクティスを含む GTM プラクティスがどの程度実践されており、それが海外子会社の水平的知識移転に与える影響およびそれらの関係性における本社の関与の媒介役割について明らかにすることにある。

論文3) This qualitative study examines the dynamics within a research and development (R&D) center of a Japanese multinational corporation (MNC) to understand how employees autonomously create and develop strategies within team settings, from the strategy-as-practice (SAP) perspective.

3. 研究方法

論文1) 文献レビュー

論文2) quantitative research

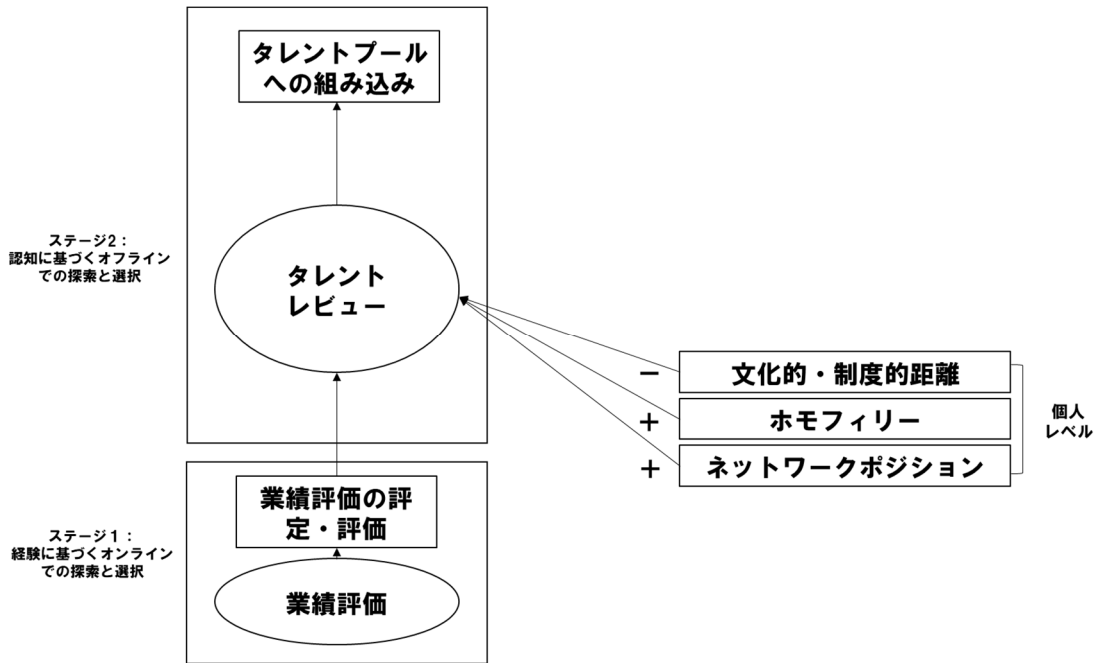
論文3) qualitative research

4. 研究成果

論文1) タレント識別プロセスにおける地域統括本社のブリッジ機能：文献レビューを中心に笠原民子 (2021) 近畿大学商経学叢 68 (1), pp.135-160

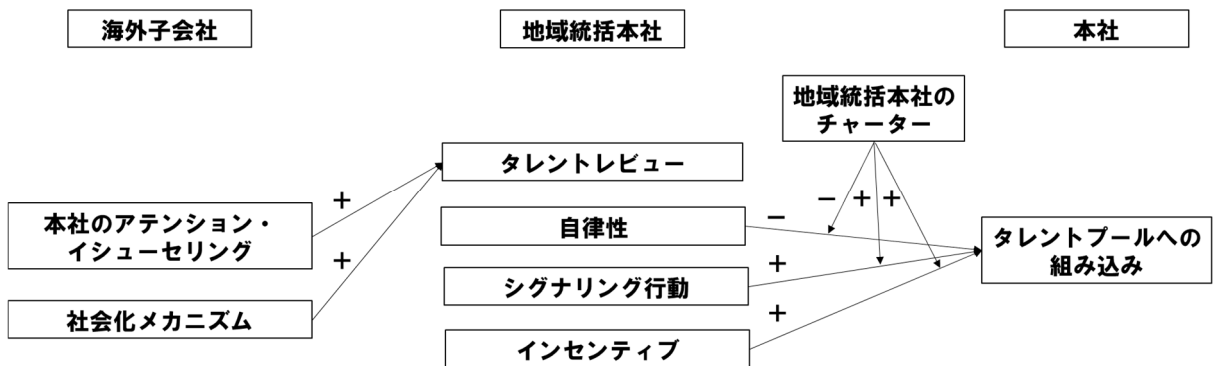
タレント識別プロセスに与える諸要因について以下の2つの概念フレームワークを提案した。

図1 タレントプール組み込みの2段階プロセス



出所：Mäkelä et al. (2010, p.137) を参考に、筆者が加筆して作成。

図4 本社のタレントプールへの組み込みにおける地域統括本社のブリッジ機能



出所：筆者が作成。

論文2) 現在論文投稿中

社会交換理論を用いて、GTM と多国籍企業の海外子会社間の水平的知識移転の関係およびその関係における本社の関与の媒介に焦点を当てた概念フレームワークを構築し、アジア地域・欧州地域に進出している日系企業を対象とした定量調査を実施した。パス解析の結果、GTM と水平的知識移転の関係は本社の注目と業績評価基準によって完全に媒介されていたが、社会化メカニズムは媒介していないことがわかった。以上のことから、本研究はMNCs 内での水平的知識移転を促進するために、海外子会社における GTM の実施において本社の関与が重要な媒介役割を果たすことを明らかにした。

論文3) Kasahara, T. (2024) "Strategy creation and development by employees: A case study in a Japanese MNC's R&D center," in S. Makino, Y. Uchida, T. Kasahara (eds.) Transformation of Japanese Multinational Enterprises and Business. Springer Nature Singapore. pp. 281-313.

By adopting a sense-making lens, we identified several key findings. First, employees comprising a team give significant importance to engaging in consensus-based decision-making meetings before and during strategic activities, as these meetings serve as foundational elements in constructing shared cognition within the team. Second, the director and specialists within the center were found to play a key and influential role in facilitating the execution of SAP activities. Third, two of the three teams under investigation expanded their strategic activities beyond the limits of the center to encompass broader, company-wide strategic initiatives. These findings underscore the significance of the SAP activities

conducted by employees.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 笠原民子	4. 巻 68
2. 論文標題 タレント識別プロセスにおける地域統括本社のブリッジ機能：文献レビューを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 近畿大学商経学会、商経学叢	6. 最初と最後の頁 pp.135-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件/うち国際学会 6件）

1. 発表者名 Kasahara, T. & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Mechanisms of team innovation: Antecedents of local employee voice behaviors and kaizen activities at Japanese MNCs in Thailand
3. 学会等名 Academy of International Business (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kasahara, T. & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Antecedents of local employees' voice behavior and kaizen activities as team innovation: The case of Japanese MNCs in Thailand
3. 学会等名 Association of Japanese Business Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原民子、関口倫紀
2. 発表標題 現地従業員の発言行動の先行要因とチームイノベーションとしての改善活動：在タイ日系企業の事例
3. 学会等名 国際ビジネス研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kasahara, T., & Sekiguchi, T
2. 発表標題 Antecedents of local employee's voice behaviors and kaizen activities as a team innovation: The case of Japanese MNCs in Thailand
3. 学会等名 Academy of Management (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kasahara, T., & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Corporate philosophy as a linking mechanism: Antecedents and behavioral outcomes of internalization of corporate philosophy at Japanese MNCs in Thailand
3. 学会等名 Association of Japanese Business Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kasahara, T., & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 Microfoundation of Kaizen activities: The role of team knowledge process and voice behavior in foreign subsidiaries of Japanese companies
3. 学会等名 Product Development and Management Association (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kasahara, T., & Pan, H., & Sekiguchi, T.
2. 発表標題 The role of global talent management in headquarter involvement and knowledge transfer in MNCs' foreign subsidiaries
3. 学会等名 9th Reading IB Conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Tamiko Kasahara	4. 発行年 2024年
2. 出版社 Springer Nature	5. 総ページ数 339
3. 書名 Transformation of Japanese Multinational Enterprises and Business	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://researchmap.jp/naminori https://www.linkedin.com/in/tami-kasahara-3b946898/
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------